

(様式 1-2)

I 学校の概要

明日も行きたくなる学校づくりプロジェクト事業

三豊市立高瀬中学校

◆生徒数及び教員数

(昼間部) ○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全 校
4 学級 1 1 6 名	4 学級 1 1 1 名	4 学級 1 1 5 名	3 学級 1 4 名	1 5 学級 3 5 6 名

○教員数 3 6 名

(夜間部) ○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	全 校
1 学級 6 名	1 学級 2 名	1 学級 4 名	3 学級 1 2 名

○教員数 1 5 名

◆学校の特色

昼間部は、①生徒プロジェクトチームによる生徒主体の企画・運営の実施、②同和問題を核とした人権・同和問題学習の実践、③1994年から続く姉妹校の韓国ソウル市の汝矣島中との交流活動を通じての国際交流の3点が特色として挙げられる。また夜間部では、2022年4月に義務教育が未修了の方、不登校などで十分に学校に通うことができなかった方、外国籍で十分に学習ができなかった方など、学び直しを求めている方を対象に開設した。さらに、本学級は現在不登校である学齢期の生徒の受け入れを行う学びの多様化学校としても、2022年3月に夜間中学として全国で初めての指定を受け、現在も学齢経過者と学齢期の生徒が共に学ぶ全国に3校しかない夜間中学である。

II 研究主題等

研究主題

「笑顔と感謝が響き合い、明日も行きたくなる学校」を目指して

◆研究主題設定の理由

不登校生徒の割合が年々増加傾向にあることは、本校における大きな課題である。そこで本校では、「楽しい」「わかった」と実感できる授業を目指し、生徒同士の学び合いを取り入れた対話型授業の実践や、生徒自らが思考を深めることができる課題の工夫などに取り組んでいる。さらに、なかまづくりを核として、生徒のファシリテーションによる人権集会の実施や、生徒プロジェクトチームを中心とした、生徒主体による学校行事等の企画・運営を行っている。また夜間部では、「日本一笑顔が多い学校」を目標に掲げ、多様性を尊重し、さまざまな背景をもつ生徒一人ひとりに寄り添いながら、個に応じた学びを展開することで、「誰ひとり取り残さない教育」の研究・実践を進めている。これらの実践を通して、生徒だけでなく教職員にも笑顔があふれ、感謝の言葉が飛び交うようになってきている。生徒も教師も「明日も学校に行きたい」と思える学校の実現を目指し、本研究主題を設定した。

◆研究内容及び方法

①いじめ等のない安心して学べる学校づくり

- ・生徒プロジェクトチームによる様々な行事の企画・運営
- ・「なかまづくり」を核とした人権学習の推進

②心の小さなSOSの早期発見・早期対応

- ・教育相談活動の充実
- ・不登校生徒の状況について共通理解を図るための不登校対策委員会を定期的に実施
- ・SCやSSW、関係機関等との連携

③児童生徒が不登校とならない、児童生徒にとって魅力ある学校づくり

- ・生徒会本部役員を中心として、学校の課題に対する行事の企画・立案
- ・「楽しい」「わかった」と実感できるような授業の実践
- ・年齢や国籍など多様な学齢経過者と学齢期の生徒たちが交流できるような行事や活動

Ⅲ 成果の評価計画（検証方法）

本校で生徒を対象に毎学期実施している「心の交流アンケート」や全国学力学習状況調査の質問紙調査から、「学校が楽しい」や、「安心して学校で過ごせている」など、本研究に関連する質問項目における肯定的割合の変化の様子について調査することにより、成果の検証を行う。

また、保護者を対象にこれも毎学期実施している「学校評価」について、同様に関連する質問項目の肯定的割合の変化について調査し、本研究の成果の検証を行う。

さらに、教職員についても毎年実施している「自己評価」を実施し、検証を行う。

そして、生徒・保護者・教職員のアンケートの同様の質問項目における比較も行うことで、さらに詳しく検証する。

Ⅳ 研究成果の普及方法

いじめゼロ子どもサミット実行委員会やSC等連絡協議会などで本校の取組を報告することで、県内の多くの教職員の方々に本校の取組を知っていただく。また、夜間学級の教育活動については県内の先生方にまだまだ十分に認識されていない面があるので、令和8年11月に香川県で開催される第48回中国・四国地区社会教育研究大会香川大会に副校長がパネリストとして参加し、学校教育関係者だけでなく、行政や社会教育、社会福祉などの関係者などさまざまな分野の方々にも夜間学級の取組を紹介する。

そして、令和8年12月25日（金）に開催予定の香川の教育づくり発表会で本校の研究成果を発表し、県下の教職員に成果と課題を発表する。